

令和3年度 三田市レジ袋ゼロ推進懇話会 会議概要

会議の名称	令和3年度 三田市 レジ袋ゼロ推進懇話会
会議の日時	令和3年11月4日(木) 10:00~11:00
会議の場所	三田市役所 本庁舎 5階 502会議室
出席者	出席者5名(市民団体:4名、協定締結事業者0名、一般参加1名) ・市民団体:三田市消費者協会会長石出正子、三田市老人連合会副会長 平井洋子、三田市商工会梶田健太、三田市商店連合会会長市野雅一 ・一般参加:奥野光久(ゼロ・ウエイスト・ジャパン理事)
事務局	三田市 まちの再生部 環境推進室長 川田 達久、環境創造課長 辻下進一、同副課長 大崎剛

1. 開 会

(1)資料の確認、(2)出席者自己紹介

2. 議 事

(1)会長選出

- ・出席者の互選により、石出正子氏を会長に再任。任期は、令和3年11月4日から令和5年11月3日の2年間。職務代理は三田消費者協会副会長の山田五郎氏が指名された。

(2)令和2年度のレジ袋削減実績報告

(事務局)「令和2年度レジ袋削減実績」【資料①】について説明

- 参加者から
- ・レジ袋の配付を止めても、ビニール袋を販売しているので無くなってはいない。
 - ・マイバッグの持参は浸透している。これはコンビニの影響が大きいと思う。
 - ・レジ袋の削減枚数が、平成21年度からの累計で1億万枚を超えている。運動の大きな成果である。
 - ・コロナ禍で家庭ごみが増加すると思ったが、逆に減少していたので良かった。
 - ・有料のレジ袋を買うのは、外出のついでに買い物をする場合や男性が多いというイメージがある。

(3)取り組み内容の報告

(事務局)「取り組み内容(R2.12 から R3.10)」【資料②】について説明

- 質疑応答
- ・レジ袋収益金からの寄付金額の減少について(参加者)
→寄付金額には、レジ袋の削減枚数との関連はありません。各事業者様が決められた金額です。(事務局)
 - ・「三田市グリーン・クリーン基金」の使い道について(参加者)
→当課では、啓発グッズや啓発ポスターの作成等に充てております。(事務局)

- 参加者から
個人での取
組報告
- ・手拭いからマイバッグを作っている。手拭い生地なので小さく畳めてカバンに入れやすい。ハンカチ代わりに汗拭きなどにも使えるので便利。以前、三田まつりの手拭いで作り、井戸前知事に贈って高評価をいただいたこともある。
 - ・作り方の案内配布、体験などが出来たらいいと思う。

(4) 今後の取組みについて

(事務局) 「今後の取組み案」【資料3】について説明

1. 今後のすすめ方について

事務局 ・「プラスチック資源循環促進法」の制定など新しい動きもあるが、当会は当面はレジ袋に特化して、まだ残る課題に取り組んでいくという方針が昨年度の懇話会で確認されています。

参加者から ・残る課題として、有料のレジ袋をどうするか、バイオマス素材等への変更を働きかけるなどでしょうか。

・レジ袋はゼロにはならない。ホームセンター等販売している店もある。

・個人商店は、スーパーとは事情が異なるため、レジ袋が必要な時もある。

・「プラスチック資源循環促進法」について勉強会などをしたらどうか。専門家の話や最新の情報は、自分の中で自分に出来ることを探し、環境にやさしい消費生活について見極めていく力になると思う。

2. 事業者への働きかけ

事務局 ・啓発ポスターを配りながら協定未締結の業者へも参加を呼び掛けます。

3. 市民への働きかけ

事務局 ・過去のまちなみガーデンショーでのキャンペーンは、のぼりを立ててグッズを配布する内容で、3年前はマスクケースを配った。来年度は、「マイバッグ持参PRタオル」を配布したい。

参加者から ・今までとは何か違うことがしたい。

・予算はいいのだが、何か参加者に作ってもらうような企画はどうか。

・手拭いでマイバッグを作ってもらうのはいいと思う。

事務局 ・キャンペーンの内容は、会長を中心に皆さんと一緒に考えていきます。

(5) その他

参加者から ・レジ袋をバイオマス化すれば、ごみの削減にもなり、より上のSDGsを目指すことができる。

・レジ袋削減は、CO₂の削減とごみの削減のどちらが目的ですか。

事務局 →CO₂排出量の削減もごみ全体の削減も、この推進懇話会の取り組みの中でどちらも重要な目的として認識しています。

参加者から ・コロナ禍で2年間イベントなどが出来ず、ゼロからのスタートになってしまったが、逆にいい機会ととらえて頑張りたい。

3. 開 会

会長から ・これからも、豊かな自然の中で自分を生かすこと、小さなアクションを起こすこと、そしてそれが広がっていくことを考えて行動していきましょう。